

## 日本ガス協会 本荘会長 会見発言要旨

### 1. e-methane に係る動向と現状

e-methane の社会実装に向けた制度課題として、主に、CO2 カウンترلールの整備、コスト差を踏まえた値差支援策の構築、環境価値移転の仕組みの構築の3点である。

2023 年度の上半期には、G7 などの国際会議においてカーボンリサイクル燃料としての e-methane の位置づけが改めて示された。

また、SHK 制度において算定方法の見直しや、クリーンガス証書のスキーム検討など、それぞれの制度課題においても具体的な検討が進んでいる。

今後も、先行して検討が進む欧州の事例などを参考に、さらなる議論の進展に期待したい。

日本国内においても、幅広くプロジェクトの検討が行われている。

さらに世界の適地においても e-methane 製造に向けての大規模なプロジェクトの事業可能性についての検証が行われている。特に、米国のキャメロンプロジェクトや中西部のプロジェクトにおいては、年間 10 万トン以上もの e-methane を輸入する計画となっている。

これらのプロジェクトは、おおむね 2030 年度の運転開始を目指している。

### 2. 緊急時の安定供給確保に向けた取り組み

日本ガス協会が作成した大規模原料供給途絶時の対応ガイドラインに基づき、10月2日に模擬訓練を実施した。

万が一、原料の供給途絶が発生した場合の対応について、シナリオに基

づく訓練を実施することにより、体制や対応・手順などの実効性に問題がないかなどを確認し、有事の際の安定供給確保をさらに万全にすることを目的としている。

当日は、自ら LNG を調達するガス事業者などが参加し、日本ガス協会・供給支援要請者・支援者のそれぞれの役割について対応シミュレーションを実施した。

### **3. 大阪・関西万博 ガスパビリオン「おぼけワンダーランド」**

2025年4月の万博開幕に向けて、ガスパビリオンの準備を進めている。

9月22日には万博が開催される夢洲において、ガスパビリオン建設に向けた起工式を開催した。ご来賓や関係者約40名が出席し、安全で円滑な工事の進行と完遂を祈願した。

また、10月4日には民間パビリオン出展者による構想発表会が開催され、日本ガス協会からパビリオンの企画内容についてのプレゼンテーションを実施した。

同時に、キャラクターや特設ウェブサイトも公開しており、開幕に向けてさらに具体的な検討を進めていく。

以上